



民主主義について語る慶応義塾大学文学部の藤谷道夫教授＝横浜市港北区で日本学術会議の会員任命拒否をめぐるたくさんの抗議声明の中で、博識に裏打ちされた豊かな表現で異彩を放っていたのが、イタリア学会の声明だった。語られていたのは、古代ローマ以来の民主主義の在りかたでもある。執筆した会長の藤谷道夫さん（62）に聞いた。

◆菅義偉首相のやり方は「神官政治」

あれは臨界点でした。安倍晋三政権からずっと民主主義の扼殺やくさつが続いていました。特定機密保護法、安保関連法などが法治主義を骨抜きにして成立しました。そして、ついに

学問の世界にまで手を突っ込んだのが、日本学術会議の会員6人の任命拒否でした。

イタリア学会創立70年の歴史で、声明を出したのは初めてのことです。恩師でイタリア学会員だった須賀敦子先生が生きていらしたら、きっと同じように思われたでしょう。

民主主義はギリシャと古代ローマで芽生えました。物事を法律化することで、少しずつ闇をなくしてゆく。法がない時は、神官の胸三寸で決まっていた。今回の菅義偉首相のやり方は、ある意味、神官政治です。理由は誰も知らない。知っているのは菅首相のみ。まさに「神のみぞ知る」なのですから。

◆古代ローマでは「国家＝みんなのもの」

ローマ法の体系づくりは、地中海の明るい光を当てて闇を除去する作業でした。ローマ人が目指したのは「光の政治」です。一方、安倍政権では隠す、改ざんする、破棄すると、どんどん「闇の政治」の拡充に努めてきました。

紀元前59年、執政官に選出されたカエサルが最初にしたことは、情報公開です。元老院の議事録を公開し、帝国中の人々が属州であっても誰でも読めるようにしました。これが世界初の新聞「国民日報」です。

古代ローマには、権力から国民＝弱者を守る制度もありました。「護民官」です。元老院の決議や執政官の命令にも拒否権を発動できました。古代ローマで、国家という言葉は「みんなのもの」という意味です。政治とは「みんなのため」の活動であり、特定の権力のためではないのです。

◆気づいたら「ゆでガエル」に！？

学術会議は医者、政府は患者のようなものです。専門知識のない患者を医師が診断し、診断書や処方箋を書き、時に患者を説諭する。なのに、思うような診断や処方箋が出ないと、金を出したのになぜ言う通りにしないのかと患者が医師に怒る。菅首相の姿は、治療費を払ってるんだから、自分の言う通りに治療しろという常識外れの患者にそっくりです。

イタリアでは学者が政権を批判することは全く問題になりません。それどころか、批判しなければ役目を果たしていないとみなされるでしょう。イタリア人には、教えを請う側がなぜこうも威張っているのか理解できません。

政府には自由に軍需産業を育てたいという思いがあるんでしょう。だから、目の上のたんこぶである学術会議の歯止めをなくしたい。法制局のトップに政府の考えに近い人を選ぶようになり、客観的な法律判断ができなくなりました。検察もそうなりそうでした。ムソリーニは暴力でファシズムを広げましたが、日本では暴力を伴わない「静かなファシズム」が進行しているようです。気が付いたら、私たちは「ゆでガエル」になっていないか、危惧しています。

◆民主主義はロゴス（言葉、論理）であるべき

民主主義は多数決ではなく、逆に多数決を捨てることです。プラトンは民主主義を批判しました。民主主義の名の下に、多数決でソクラテスが殺されたわけですから。

現代の民主主義はロゴス（言葉、論理）主義であるべきです。論理に従って議論し、たとえ少数派であってもより正しく合理的な方が勝つ。数ではありません。議会は、そのためにあります。拙速に多数決で決めて間違えより、じっくり考えて正しい道を選んだ方がいい。多数決が正しいなら、天動説が正しかったことになります。

「間違うのが人間だ」というローマ人のことわざがあります。間違うことから逆算して考える。イタリアには原発が1基もありません。チェルノブイリの事故の後で全部やめました。自分たちは間違う可能性があると考えたからです。失敗から逆算する発想です。だから、議事録も取るのが当たり前。失敗したら、それを振り返って参考にする。日本には無謬主義がはびこっているため、隠蔽や改ざん、破棄が起きる。

日本はローマやイタリアから、まだ学ぶべき点がたくさんあると思います。

ふじたに・みちお 1958年生まれ。慶応大教授、ダンテ研究の第一人者。イタリア学会会長として、日本学術会議会員任命拒否問題で政府に抗議声明を出す。学生時代に故・須賀敦子さんに師事し、後にダンテ『神曲』の共訳を出版。